

## 九州歯科大学第六九回卒業式

### 式辞

本学では、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対して、いち早く、COVID-19 対策会議を立ち上げ、学生・教職員が安全・安心な就学・就業環境のもと活動できるような大学運営を行ってきました。そのようななか今年度の卒業式は、COVID-19 禍中ということを経験し、「新たな生活様式」のもとでの「密閉、密集、密接」いわゆる3密回避に重きをおき開催することとしました。あわせて、COVID-19 対策会議の判断のもと、従来とは異なる式次第のもと執り行います。

本日、ここに、大曲昭恵（おおまがり あきえ）福岡県副知事及び吉松源昭（よしまつ もとあき）福岡県議会議長のご出席を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げます。一方、COVID-19 の現況を鑑み、来賓各位ならびに保護者の皆様には、今回、ご臨席のご案内を控えさせていただきました。本学に入学以来、成長を見守ってこられた皆様方のお喜びは一方ならぬものと拝察しております。今

年度は、直接、言葉でお伝え出来ないもどかしさを感じるなかですが、この場にて、あらためて、心よりお祝い申し上げます。

さて、歯学科69期生および口腔保健学科八期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。今日の皆さんは、卒業証書・学位記を手にして、入学時から今日まで過ごした大学での思い出がつぶさに蘇り、感無量のことと思います。送る立場の我々教職員も、歯科医療の世界で、明日から君たちが澁刺として活躍する姿を思い浮かべ、社会に貢献する歯学士および口腔保健学士に育て上げたという安堵感とともに、本学で培った歯科医療に関する知識・技術・態度をもって、これからの厳しい実社会での成功を切に願っています。

九州歯科大学は、2015年の10月に、あらたに九州歯科大学憲章を制定し、これまでの3つの基本理念に加え、6つの教育研究目標を掲げ、実践的な歯科医療人育成教育を推進してきました。

この憲章のもとで、歯学教育を展開するにあたり求められる3つのポリシー、すなわち、「このような人材を育てます」という視点でのディプロマ・ポリシー、「このような教育を行います」という視点でのカリキュラム・ポリシー、「このような学生を求めています」と

いう視点でのアドミッションポリシーを定め、社会に対して開示しています。さらに、それに符合させる形で、本学の2つの学科それぞれに卒業コンピテンシーを定め、学部教育を展開してきました。

この間、本学で学修してきた皆さんは、大学卒業後、あらたな組織で歯科医療人として活動していくにあたり、その基盤となる「知識・技術・態度」はしっかりと身につけていると判定されたということ  
を胸に刻み込み、これから先、いかなる状況にあっても、本学での教  
えを基盤にして、常に高い志と向上心を忘れることなく、生涯研  
修に励んでください。そして、様々な局面で自らに課題を課し、培  
ってきた知識と技術ならびに高い倫理観をもって、行動する社会人  
になることを切に願っています。

古き良き伝統を有する九州歯科大学は、設置団体の福岡県の温かいご支援のもとで、これまで通り、歯科医療界を牽引する実践的歯科医療人を育成していくことに変わりはありません。さらに創立100周年を機に整備した九州歯科大学基金を活かし、九州歯科大学はあらたに Global and Local Academic Collaboration を掲げ、アジア諸外国や欧米の歯科教育機関との間で締結した教育連携協定を

軸に幅広い国際連携活動を展開してきました。君たちのなかには、この活動の一つである国際連携推進事業のもと、タイ及び台湾で研修し、海外派遣プログラムの単位を取得した学友がいるかと思いません。さらに、昨年から今年にかけて、第3期中期計画のもと、ラーニングコモンズ事業として新設された講堂棟食堂におけるラーニングコモンズカフェや本館図書館内のアクティブラーニングスペースとグループワークスペースを活用して、皆さんは、歯科医師国家試験あるいは歯科衛生士国家試験合格に向けて勉強に励んだことと思います。大学が提唱している Think globally. act locally という考え方のもと、次なる歯科医療を見据えて改編を進める九州歯科大学教育プログラムのもとで修学した皆さんは、「世界規模で考え、足元から行動せよ」という Glocal な精神をもって、歯科医療人としての第一歩を力強く踏み出すことを強く望みます。

むすびに、世界的に著名な経営思想家 P.F. ドラッカーがリーダーシップについて、このように述べています。曰く、「効果的なリーダーシップの基礎とは、組織の使命を考え抜き、それを目に見える形で明確に提議し確立することである。有能なリーダーとは、目標を

決め、優先順位を決め、基準を定め、それを維持する者である。」。

現在の COVID-19 禍中、あえて卒業生諸君にこの言葉を紹介し、歯科医療におけるニューリーダーとして歯科界を牽引し、社会に貢献する歯科医療人となることを切に願い、私からの式辞と致します。

令和3年 3月12日

九州歯科大学

学長 西原 達次